

### 3-3 具体的な方策として・・・

- ・ 周辺の林や巨石の利用等、自然を砂防施設に流用するような対策を出来る限り行う。
- ・ 中田切川については、特に自然を生かす工法にする。
- ・ 土石流に関する正確な情報を把握・提供する。
- ・ 砂防ダムや床止め工の設置など、土石流対策は引き続き行っていく。
- ・ 現在の景観を保っていただけるような最低限の河川整備をおこなっていく。
- ・ キャンプ場からの汚水やゴミの発生を防止する。
- ・ 魚が無理なく遡上できる魚道を設置する。
- ・ 利水を見直し、河川流量の復元を図る。
- ・ キャンプ場のあり方について検討を行っていく。
- ・ ゴミを捨てないなど、利用者のモラルの向上を図る。
- ・ 地形図を持って学識者や登山家等とアルプスや田切地形を歩き、地形を学ぶ。などが考えられます。

## ゾーン名 4.【生活の川ゾーン】 (赤穂・中沢・飯島)

### 4-1 ゾーンの特徴

- ・ 排水路や農業用水として利用されている生活に密着した小河川です。
- ・ 河川が人目に触れやすいです。
- ・ 市街地からの排水のため汚れが目立ちます。
- ・ 昔はカジカなどの魚がたくさんいました。今はほとんどいません。
- ・ 昔は小さい子供が遊ぶための川でした。ウロツカミもここで覚えました。
- ・ 36災等の災害復旧工事を契機に三面張り、根継ぎ工が目立つようになりました。
- ・ 前沢川や郷沢川は、昭和20年代から砂防指定のあった急流河川です。(治水)
- ・ 鼠川や田沢川などは親水護岸や遊歩道等の水に親しむ工夫がなされています。

### 4-2 整備・保全・利用の方針

1. 水質をきれいにするための方法を考えます。
2. 魚の棲める川にします。
3. 三面張りをやめ、自然に近い形での工法を採用します。
4. 景観と安全が両立する川づくりを目指します。
5. 周囲の自然環境に配慮しながら、現在の安全性を維持していきます。
6. 川遊びや菜っ葉洗いができるような川にします。
7. 水辺に近づきやすくして、身近な自然が楽しめるような工夫をしていきます。
8. 地域の生活に密着した川であることを再認識し、その環境づくりについて正面から考えます。
9. 住民自らが防災意識を高めます。
10. 「子供が遊ぶ川だ」という意識を復活させます。

### 4-3 具体的な方策として

- ・ 現場の石を大切に、護岸を施す際はなるべくそれを利用する。
- ・ 在来植物(クヌギ、ヤマグルミ、ヨシ等(要調査))が生息しやすい構造を整える。
- ・ 根継ぎだらけの景観を改善する。
- ・ 水を汚さない努力をする。
- ・ 下水道等の水質浄化施設を整備する。
- ・ 水生生物や魚が棲める川を復活させる。
- ・ 落差工に魚道をつける。
- ・ 農地部は川幅を拡げて断面を確保し、河道はなるべくそのままとする。
- ・ 市街地で治水対策を施す必要がある場合は、河床は木工沈床、護岸は玉石張りにするなど、なるべく自然に近い方法で行う。
- ・ 土砂流出を引き続き防止すると共に、砂防ダムの土砂を効果的に流下させることによって河床の低下を防止する。
- ・ 緩い玉石張り護岸にして、水辺に近づきやすくする。
- ・ 安全面に配慮し、護岸にステップ等を設ける。
- ・ 行政と市民とが連携して川づくりをする。
- ・ ハザードマップを作成したり、河川構造や河川工事について情報を提供することによって、住民が積極的に治水問題に取り組む。
- ・ 大人が川を利用し、子供が川で遊ぶ。
- ・ 生活実感として、川が南北の境界になっていることをアピールする。(郷沢川を境に、茶、竹、藪椿、甘柿の甘さ等に差が表れる。)

などが考えられます。

